

業績ハイライト ～紀陽銀行単体～

損益面

(単位: 億円)

	平成19年3月期 実績	平成20年3月期 実績	平成21年3月期 実績	平成22年3月期 実績	前期比
業務粗利益	553	590	483	589	106
資金利益	507	517	528	508	▲ 20
役務取引等利益	64	66	57	40	▲ 17
その他業務利益	▲17	6	▲102	40	142
経費 (▲)	373	364	359	364	5
一般貸倒引当金繰入額 (▲) ①	▲14	10	—	11	11
業務純益	195	216	123	212	89
コア業務純益	183	221	224	186	▲ 38
臨時損益	▲101	▲ 99	▲196	▲ 128	68
うち 不良債権処理額 (▲) ②	110	92	95	62	▲ 33
うち 株式関係損益	▲8	▲ 25	▲110	▲ 72	38
うち その他臨時損益	17	19	10	5	▲ 5
経常利益	93	116	▲ 72	83	155
特別損益	12	▲ 33	48	17	▲ 31
うち 償却債権取立益 ③	41	26	14	18	4
うち 貸倒引当金戻入益 ④	—	—	38	—	▲ 38
うち 親会社株式売却損 (▲)	—	51	—	—	—
法人税等調整額 (▲)	18	▲ 5	▲ 53	25	78
当期純利益	84	88	29	75	46
与信費用 ① + ②	95	103	95	74	▲ 21
与信コスト総額 ① + ② - ③ - ④	54	76	43	55	12

(注) 1. 金額は単位未満を切り捨てて表示
2. (▲) は損失項目
3. 19年3月期は二行合算ベース

〈平成19年3月期の損益〉



紀陽銀行と旧和歌山銀行は平成18年10月に合併したため、平成19年3月期における紀陽銀行の単体計数は、合併前の旧和歌山銀行の計数が反映されておりません。このため、平成19年3月期の損益については、二行合算による計数を用いております。

銀行の本来業務の収益を表すコア業務純益は、前期比38億円減少し、186億円となりました。これは、営業人員の増強や営業体制の強化により貸出金の残高は増加したものの、平成20年秋の政策金利引き下げの影響を受け、貸出金利回りが前期比低下したことにより資金利益が減少し、また預かり資産販売についても好調時の水準にまで回復しておらず、役務取引等利益が前期比減少したことによりです。経費につきましても、人員増による人件費の増加などにより前期比増加いたしました。

このように本業部分においては厳しい状況にあったものの、国内外の金融市場の好転による債券関係損益の改善により、その他業務利益については前期比大幅に増加した結果、経常利益は前期比155億円増加し83億円、当期純利益は前期比46億円増加の75億円となりました。

与信費用につきましても、景気低迷の状況下、事業再生への積極的な取り組みや与信ポートフォリオの改善等に努力し、資産健全化をすすめた結果、前期比21億円減少の74億円となりました。

預金等・預かり資産、貸出金、有価証券の状況

お客様の多様なニーズにお応えするため、新商品の販売や預かり資産の内容充実などに積極的に取り組んだ結果、預金等残高は前期末比2,008億円増加し3兆4,148億円、預かり資産残高については前期末比606億円増加の4,356億円となりました。

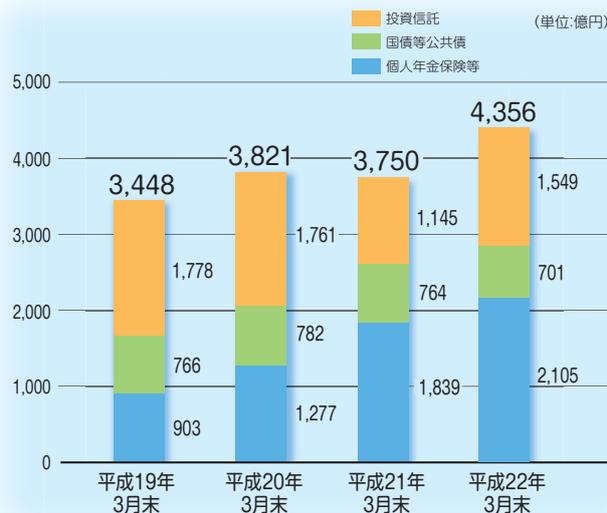
また、お客さまとの接点を強化する方針のもと、積極的に地域金融の円滑化に取り組んだことにより、貸出金残高は前期末比659億円増加の2兆4,515億円となりました。ローン残高についても、前期末比428億円増加の8,544億円となりました。

保有している国内株式、外国証券、投資信託等においては、国内外の金融市場の好転により時価が上昇いたしました。

●預金等残高の推移



●預かり資産残高の推移



※個人年金保険等は販売累計額

●貸出金残高の推移



●ローン残高の推移



●その他有価証券評価差額

